

## エイジレスに生きるため、生涯学習は「ライフワイド」

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

「生涯学習」の英訳は、「ライフロング ラーニングLifelong learning」です。当財団も設立した際にこう訴えました。「超高齢社会に向けて定年後の長い人生をどう生きるか。ずっと社会とつながってエイジレスに生きていくためには、若い時から準備をし、学びましょう」と。そして、そのような生き方をする人を紹介し、社会に役立つための資格や学びの機会を提供し、私自身も71歳で博士号にチャレンジし取得するなど、常に日本の生涯学習を牽引してきたつもりです。

そうして設立から35年、「超高齢」に加えて「多元的共生社会」となつたいま、エイジレスに生きていくためには、「ライフロング」だけではなく「ライフワイド」という新たな価値観を持って学ぶ時代入っています。財団では2013年から、多元的共生社会にどう生きるかを考えるシンポジウムと

ワークショップを開催してきました。激しく変化する現代においては、一つの企業や国に依存して生きていくのは不可能で、多元的・多様なコミュニティと関わって生きていかざるをえないからです。

一方で、35年たつても変わらない、変えてはいけない原理もあります。人間が、心豊かに、生きがいを感じながら生きるためには、他者のために生きる、社会に役立つ使命が必要だということです。それは大伯父の大森兵蔵とアニー・シェプリー（安仁子）が、1911年に私財を投じて福祉施設「有隣園」を設立した時からずっと、今に至るまで引き継がれている当財団の精神なのです。

社会の変化に合わせた自分の役割を探し続けること。そのために学ぶのが生涯学習です。若い方々が、ただ長生きするだけでなく、心豊かに充実した人生を送るために、10月で90歳になった私から3つの提案をします。

1 つめは、自立（自律）しましょう。あてにならない国や役所を嘆いても仕方ありません。自分の周りから互恵的に支え合う関係を築き、ネットワークを広げましょう。

2 つめは、知らずに悩むのではなく知って考える生き方をしましょう。変化する社会の問題解決のために必要な学習をし、必要なら資格を取得してください。

3 つめは、世界が未体験の超高齢社会において、日本の高齢者がどんな活躍をするか注目し、学んでください。もちろん私も手本になれるよう、生涯現役でがんばりますよ。

